

## 計画の論点

## 1 実態調査の分析

## (1) 成人週1回以上のスポーツ実施率

① 全体：50.3% (H27)→53.4% (R2) 参考：全国 51.5% (H29)

➡ 向上しているが引き続き実施率を上げる方策が必要  
やっていない方をいかにやるようにするか

② 年齢別：10代、20代低下、30～50代上昇

➡ 健康長寿達成のための重点世代は意識向上しつつある  
引き続きこの世代の実施率向上を図っていく必要あり  
若年世代はなぜ低下したのかを探る必要がある  
忙しさ、生活の困窮度が上がり優先順位低下したか等

## (2) 取り組んだ運動、スポーツについて

多いのはウォーキング、体操、ランニング、スポーツジム、サイクリング

➡ 全員が参加できる取組はこの辺りを軸に考えるのが効果的か  
競技系ではテニス、卓球、バドミントン、ゴルフ、ボウリングが上位  
ほかにヨガなど

➡ 嗜好の多様化に合わせ取組を考えていく必要がある

## (3) 運動しなかった方の運動しなかった理由

「機会がなかった」、「時間がない」、「年を取ったから」、「嫌い」の順

➡ ① 日常の何気ない活動も運動と捉えられることの啓発  
② いつでもどこでもできる運動情報の提供の必要性

## (4) 未就学児の状況

動くことが好きな子どもは増えているが、スポーツをしている子どもは減っている

自由回答では、やらせたくても習い事に親の生活パターンが合わず送迎ができないので断念している、幼稚園や保育園からスポーツ系の習い事に送迎してくれるサービスがほしいという意見が目立った

➡ そのようなサービスが可能か、実施主体は

## (5) 小学校、中学校の状況

小学校では「運動が好き」が増えているが、中学校では減っている

➡ 原因を考える必要がある

中学校では体育系の部活に加入している子どもが減っている  
その中では卓球部への加入が増えていることが目立つ

## (6) スポーツ団体

場所確保、団体支援やイベント実施、企業連携の希望が多い

## 2 論点の整理

### (1) 課題の認識① 基本理念との関係

#### 現行計画の基本理念

「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでもスポーツを  
生涯スポーツ推進のまち・久喜市」

- ➡ ・ 曜日（平日、休日）、季節にかかわらず
- ・ 家庭、学校・職場：公的・民間施設、施設外にかかわらず
- ・ 子どもから高齢者まで：ダイバーシティ的な観点

↓

- 現状 ➡
- ・ 平日はやっていない人が多い。厳しい季節はできない意見も
  - ・ 家庭での実施は差がある。施設なくしていない意見もあり
  - ・ 年齢を理由にしていない方あり。環境が機会均等でない

↓

- 課題：
- ・ 平日など時間があまりとれない場面での実施
  - ・ 気候が厳しい季節の実施
  - ・ 家庭での運動を促す方策
  - ・ 個人個人の状況にあった運動を促す方策
  - ・ だれもが運動のできる環境の整備

### (2) 課題の認識② 「健幸・スポーツ都市」宣言との関係

#### 都市宣言の趣旨

- ➡ ・ 目的は健幸＝年齢を重ねても生活の質を維持できること
- ・ そのためすべての市民が健康づくりに取り組む
- ・ 特にスポーツを通じた健康づくりを重視
- ・ スポーツを通じたコミュニケーションによるまちづくり

#### そこからみえる課題

- ・ 生活の質の維持には、高齢者になる前に運動習慣が身につけている必要がある
  - ➡ 高齢者に至る前の40～50代の運動習慣が重要
- ・ 行政のみならず多様な主体の参画による取り組み必要
  - ➡ 各主体の役割について確認、認識する必要がある

### (3) 課題の認識③ 時代背景からの認識

- ① 新型コロナウイルス感染症をはじめとした感染症対策
- ② ダイバーシティ的な観点から、「人を区別しない」スポーツ環境の整備の必要

### 3 スポーツ推進にかかわる各主体の役割の検討（整理の提案）

	する	みる	ささえる
市民			
地域			
スポーツ団体			
民間企業			
学校等			
市			

